

ウガンダ 平成 20 年度 3 次隊 酒井樹里 村落開発普及員(ネリカ)

ただいまご紹介に預かりましたウガンダ国派遣の酒井樹里と申します。本日はお忙しい中、私たち平成 20 年度 3 次隊・青年海外協力隊並びにシニア海外ボランティアの帰国にあたり、このような式典を開催していただき、誠にありがとうございます。山花外務大臣政務官はじめ、ご来賓の皆様方に深く御礼申し上げます。

私は二年間、村落開発普及員の職種でネリカ米の普及活動に従事しておりました。ネリカ米普及については、ウガンダを始めこれまでに約 100 名のボランティアがアフリカ大陸に派遣されてきました。本日は私と同じようにウガンダでネリカ米の普及に従事していた同期隊員 3 名もご招待いただいております。

私の活動について簡単にご報告させていただきます。赴任当初は稲作があまり普及していなかった私の村で、ネリカ米をどのように普及させれば良いのか模索する日々が続きました。そんな中で開催した「ネリカ米普及ワークショップ」や、「農家個別訪問」を通じて農家の人達が稲作の基礎的な知識に乏しい事に気づきました。コメ振興プロジェクトの JICA 専門家からの助言・指導を受けつつ、除草・鳥追い・収穫後の処理の問題などをウガンダ人同僚と共に取り組み、ネリカ米の普及活動に励み、2 年間で 100 軒以上の農家がネリカ米を栽培するようになりました。コメが他の換金作物に比べ高収益を生むので栽培農家の多くが収入を増やし、生活の向上へと繋がっています。

このように述べますと順調な活動であったと思われるかも知れませんが、大きな壁がありました。村へ通じる道があまりにも悪路で、作物の出荷に支障を来し、買付け業者の車も村に入れないという死活問題です。この問題を解決すべく、村民リーダーに相談し、村道の補修工事を実施する事にしました。京都大学の木村教授が推奨する土嚢工法を用い、村人の協力を得て、4 か村で約 1000 メートルの村道を補修することができました。約 1200 名の村人がその恩恵に浴しています。村道が良くなった事で村に買付け業者の車が入れる様になり、収入が向上する結果となりました。

収穫したネリカ米を嬉しそうに見せてくれる農家の人達や、ネリカ米から得たお金で学校に戻った農家の子供達の姿、二人三脚で私と活動を共にしてくれた同僚、いつも私を気にかけてくれる村の人達・・・たくさんの素晴らしい支えがあったからこそ、稲作の門外漢であった私でも、途上国の人々のお役に立てたのだと思います。つらい事も有りましたが、2 年間の活動を無事終え満足すると共に、全ての人々に感謝したい思いでいっぱいです。

今後、私たちはそれぞれの進路につきますが、青年海外協力隊員として 2 年間活動し得られた問題解決能力、語学力などを活かし、この事業を支えてくださる国民の皆様へ恩返しができるよう、日本社会、そして国際社会に対し貢献していきたいと思います。今後とも、ご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

【帰国ボランティア報告参考資料】



ネリカ米*の普及に貢献するため、これまでアフリカ8カ国（ウガンダ、ガボン、ケニア、エチオピア、ブルキナファソ、マダガスカル、モザンビーク）に約100名のボランティアを派遣してきました。

*NERICA (New Rice for Africa)の略語で、アジアイネの高収量性と、アフリカイネの耐乾性・耐病虫性などを併せ持つ品種。



酒井隊員の活動風景

「ネリカ米の普及」と一口に言っても、そのコミュニティによって状況、抱える課題は異なり、そのアプローチは一概ではありません。酒井隊員は「ネリカ米普及ワークショップ」や、「農家個別訪問」を通じて農家の人達が稲作の基礎的な知識に乏しい事に気づき、JICA専門家の指導助言のもと、ウガンダ人同僚と共に除草・鳥追い・収穫後処理の問題に取り組みました。



▲コメが主食ではない地域では、「コメはすべて同じ」という認識を持っている人が多いです。そうした人々にコメについて、そしてネリカについて知ってもらい、興味を持ってもらうことも一つの活動です。



▲コメは高く売れるため、換金作物として育てられている地域もあります。しかし、流通にのせることができれば、育てても現金収入を得ることができません。そこで、コミュニティのアクセスを改善するため、**土嚢による道路整備**を行いました。



◀コメの販売にあたっては、収穫後の処理も重要なプロセスです。他ドナーから供与された機械の正しい使い方を普及し、付加価値の向上に努めました。



村の子供たちと同僚